

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	870101540		
法人名	有限会社 アンビジョン		
事業所名	グループホーム あすなろ		
所在地	水戸市島田町3403-1 (電話) 029-267-7301		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年8月28日	評価確定日	平成20年3月17日

【情報提供票より】(平成19年8月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人, 非常勤 3人, 常勤換算	13.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月28日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3	要介護2	4		
要介護3	6	要介護4	5		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 81.9歳	最低	58歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加藤内科、おいかわクリニック、柳橋整形、大串歯科、ハーモニーデンタルクリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、「利用者、家族、職員などホームに関わるすべての人達が家族のような暖かい存在である」との考えを基に、関わりを持った利用者を最後まで責任を持って、利用者へ寄り添う援助を提供できるよう心がけている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の課題に対し、管理者と職員で話し合いを行い、衛生管理表の導入、薬や洗剤等注意の必要な物品の一括保管、表示の工夫、食事を楽しむための介助や声かけなどを改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を日々の介護サービスを見直す機会と捉えており、管理者は職員とともに積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会長、行政、家族代表、地域の介護支援専門員・職員などを委員とする運営推進会議を定期的に開催しており、ホームの課題を議題とするなど、活発な意見交換を行っている。 また、会議で出た意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	納涼祭やクリスマス会の日に合わせて家族会を開催し、意見や要望等を聞いている。 玄関にホームの方針を掲示するとともに、家族アンケートを定期的に行っている。 利用者や家族等の意見や要望をノートに記録し、運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会・商工会に加入し、ゴミ拾いや草取りなど、地域の行事にも積極的に参加するとともに、職員が地域行事の担い手となって関わっている。 また、地域の方々にホームで開催する介護に関する学習会への参加を呼びかけるとともに、花火見物など交流の場として開放している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義について、管理者と職員が話し合い、ホームの理念を作っている。 また、来訪者にも理解を得られるよう玄関に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念に基づく支援に取り組むため、名札の裏に理念を明示するとともに、おりにふれて確認し、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・商工会に加入し、ゴミ拾いや草取りなど、地域の行事にも積極的に参加するとともに、職員が地域行事の担い手となって関わっている。 また、地域の方々にホームで開催する介護に関する学習会への参加を呼びかけるとともに、花火見物など交流の場として開放している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価を日々の介護サービスを見直す機会と捉え、職員とともに積極的に取り組んでいる。 前回の外部評価の課題に対し、管理者と職員で話し合いを行い、衛生管理表の導入、薬や洗剤等注意の必要な物品の一括保管、表示の工夫、食事を楽しむための介助や声かけなどを改善している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、行政、家族代表、地域の介護支援専門員・職員などを委員とする運営推進会議を定期的で開催しており、ホームの課題を議題とするなど、活発な意見交換を行っている。 また、会議で出た意見をサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れや行事への招待など、運営推進会議以外でも市の担当者等と行き来する機会を設けており、相談事案が生じた場合は相談できる関係を構築している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の担当職員が、金銭出納帳の写しや領収書を家族等に送付するとともに、ホームでの暮らしぶりを伝えている。 また、家族の訪問時には、行事等の写真やビデオを見せている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	納涼祭やクリスマス会の日に合わせて家族会を開催し、意見や要望等を聞いている。 玄関にホームの方針を掲示するとともに、家族アンケートを定期的に行っている。 利用者や家族等の言葉をノートに記録し、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットとも、顔馴染みの職員によるケアを心掛けている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いての学習会の開催、他のホームへの見学等を積極的に行っている。 運営者は、職員の専門性を高める研修の受講を促したり、福利厚生の実施を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者団体に加入するとともに、大会においてホームの実践発表などを行っている。 また、ホームで行う勉強会を地域の同業者に開放するなど、地域全体のサービスの質の向上にも取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人や家族等の見学を受け入れるなど、安心してサービス利用が出来るよう支援している。 隣接するデイサービスやショートステイを利用していた方が入居しており、日頃から職員と顔馴染みになっている。 また、利用予定者が入院している場合は、全職員が交替で見舞いに行き、顔馴染みの関係が築けるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に生活する家族として考え、行事を行う時にはその都度、教えてもらうようにしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを訴える事が困難な利用者には、家族の希望や職員の気づきを取り入れ、利用者本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望、担当介護支援専門員の意見、退院時のサマリーを参考に、介護計画作成者と職員が介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、個別の生活記録やセンター方式の書式により評価を行い、見直している。 入院など状態が変化した時は、利用者の状態に応じて介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームで開催している介護の勉強会に家族、地域の方も受講している。 また、面会時の家族送迎、通院介助や個別の外出など、利用者や家族の要望に応じた柔軟な対応を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医で受診することを基本としている。 また、緊急時に対応できるよう、複数の医療機関を確保している。 受診結果の報告書を作成しており、報告書を全職員が見て情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	マニュアルによる対応ばかりでなく、医師の判断と家族全員の同意があった場合に契約を結び、終末期の対応をしている。 ホームでは終末期の対応に既に取り組んでおり、最後まで寄り添う方針に基づいて、実践している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報等の取扱は、書類の保管場所を決めるとともに、職員に対し個人情報保護の周知と徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れを作っているが、利用者のペースで一人ひとりが自由に過ごしている。 職員は利用者の希望にそった支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域で収穫した旬の食材を利用して、職員が調理している。 下膳、食器拭きなどの後片付けを職員と利用者で行っている。 検食の為1名の職員は一緒に食事をしているが、他の職員は介助を行いながら、楽しく食事が出来るよう、雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームに檜風呂を設置しており、利用者は職員の介助で好きな時間に入浴する事が出来る。 入浴を拒む利用者には、足浴を行うなど、無理のない入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	タバコを吸う利用者のためには喫煙場所を設置している。 職員は利用者には下膳や皿拭きなど、できる事をお願いしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	偕楽園や水族館見学、花見や買物など、外出時には利用者と職員全員が一緒になって楽しんでいる。 外出時の利用者の様子を写真等で記録し、面会に来た家族等に報告している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠しており、日中は玄関の鍵をかけず、利用者が自由に暮らせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携した避難訓練や通報訓練を行っている。 ホームの耐震性の確認を行い、高齢者等の避難場所として提供できる事などを地域に提案している。 ビスケットや水などの非常食を用意している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員を中心として栄養バランスのとれた献立を作成している。 糖尿の方のカロリー管理や水分摂取量を記録するとともに、担当職員が他の利用者の食事や水分摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは広く、利用者の状態に配慮したテーブルを配置している。 台所からの調理の音や匂いは、利用者にとって食欲を高める働きをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや布団、棚やタンス、飾り物、植物など、好みの物を自由に持ち込み、利用者が安心して過ごせる居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。